

子どもと女性の健康相談室

56



福島医大ふくしま子ども女性医療支援センター長

高橋 俊文氏

不妊治療は赤ちゃんの希望があり一年間妊娠に至らないまたは明らか

と女性側にある場合（女性不妊症）がありますが、実際には男女のいずれか

ます。精子を作る異常の多くは原因不明ですが、精索静脈瘤（精巣周辺

す。内科的治療として、排卵障害に対して行われる排卵誘発法がありま

の老化には、原因に対する有効な治療法がありません。このような不妊症には、一般不妊治療として数回程度の排卵誘発と人工授精（精子を濃縮し子宮内に注入する方法）が行われます。

不妊原因があるカップルに対して行われます。女性の年齢が三十五歳以上で、六カ月間以上の不妊

だけに原因があることは少なく、多くのカップルは両者に不妊原因を認め

液所見が改善（精子数と

性不妊症（卵管の狭窄（きょうさく）・閉塞、腹腔

を改善させる治療と排卵誘発や人工授精などにより妊娠するチャンスを増やす治療を含みます。しかし、一般不妊治療で妊娠できるのは50%程度であり、残りの不妊症カップルには生殖補助医療が必要となります。今回は不妊症の治療として生殖補助医療を紹介します。

が、一般不妊治療で妊娠しなかった場合や、重度の男性不妊症（乏精子症・無精子症）、女性が高

不妊治療の原則は、ほかの病気と同じように原因の除去とその治療です。男性不妊症の原因は、

①精子を作る異常②精子を輸送する異常③性功能の異常—に分けられ

（ふくくう）内癒着）や子宮筋腫・子宮内膜症などの婦人科疾患を合併した不妊症に対して行われます。

一方、不妊原因の除去とその治療ができない原因不明の不妊症カップルが20%います。原因不明不妊症や女性の年齢増加による卵巣機能の低下（卵子数の減少）、卵子

妊娠しやすいさを向上

ます。

運動率の増加）します。

（ふくくう）内癒着）や子宮筋腫・子宮内膜症などの婦人科疾患を合併した不妊症に対して行われます。

を改善させる治療と排卵誘発や人工授精などにより妊娠するチャンスを増やす治療を含みます。しかし、一般不妊治療で妊娠できるのは50%程度であり、残りの不妊症カップルには生殖補助医療が必要となります。今回は不妊症の治療として生殖補助医療を紹介します。

年齢の場合には生殖補助医療による治療が行われます。

①精子を作る異常②精子を輸送する異常③性功能の異常—に分けられ

には、精神的な原因以外に糖尿病などの全身疾患が原因のことがありま

一方、不妊原因の除去とその治療ができない原因不明の不妊症カップルが20%います。原因不明不妊症や女性の年齢増加による卵巣機能の低下（卵子数の減少）、卵子

を改善させる治療と排卵誘発や人工授精などにより妊娠するチャンスを増やす治療を含みます。しかし、一般不妊治療で妊娠できるのは50%程度であり、残りの不妊症カップルには生殖補助医療が必要となります。今回は不妊症の治療として生殖補助医療を紹介します。

不妊症の原因が男性側にある場合（男性不妊症）

①精子を作る異常②精子を輸送する異常③性功能の異常—に分けられ

には、精神的な原因以外に糖尿病などの全身疾患が原因のことがありま

一方、不妊原因の除去とその治療ができない原因不明の不妊症カップルが20%います。原因不明不妊症や女性の年齢増加による卵巣機能の低下（卵子数の減少）、卵子

を改善させる治療と排卵誘発や人工授精などにより妊娠するチャンスを増やす治療を含みます。しかし、一般不妊治療で妊娠できるのは50%程度であり、残りの不妊症カップルには生殖補助医療が必要となります。今回は不妊症の治療として生殖補助医療を紹介します。

不妊症の治療

（一般不妊治療）

女性不妊症の治療は、不妊原因によって内科的・外科的治療が可能で

（ふくくう）内癒着）や子宮筋腫・子宮内膜症などの婦人科疾患を合併した不妊症に対して行われます。

を改善させる治療と排卵誘発や人工授精などにより妊娠するチャンスを増やす治療を含みます。しかし、一般不妊治療で妊娠できるのは50%程度であり、残りの不妊症カップルには生殖補助医療が必要となります。今回は不妊症の治療として生殖補助医療を紹介します。